

あおむり漁連

故 植村正治氏 書

魁礼!! 協同組合運動

No.
179



11月30日 水産まるごとフェア 抽選での1コマ

CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1
全国系統団体・年頭ごあいさつ	7
令和7年 ほたて生産・販売関係者新春祝賀会	10
2024年度 海難防止技術競技会 陸奥湾大会	11
重大漁船海難防止講習会	12
令和6年度 陸奥湾密漁取締訓練開催	13
漁協経営検討会/2024年度 決算実務研修会/第4回 ALPS 基金事業説明会	14
JF全国代表者集会	15
各種要請活動について	16
2024年度 漁協運動功労者表彰/令和6年度販売担当者会議開催	17
令和6年度 青森県漁協系統購買担当者研修会/水産まるごとフェア開催	18

2025. 1

資源・金融・共済の三本柱推進

令和七年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 二木 春 美

先ずは、昨年1月に発生した能登半島地震により、犠牲になられた方々へ哀悼の意を表しますとともに、今もなお避難生活を余儀なくされている多くの方々に対し、心からのお見舞いと一日も早い復興復旧を祈念申し上げます。

令和7年の新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

近年の漁業情勢につきましては、海洋環境の激変に起因する漁獲不振に加え、円安や国際情勢の緊迫化に伴う燃油・資材価格の高騰により、漁業・漁協経営は甚大な影響をうけ、過去に経験の無い厳しい一年となりました。

本県においても、長期化する主力魚種の漁獲不振やクロマグロ資源管理に伴う収入の減少により、漁協・漁業者の経営は逼迫

する一方であり、漁業ならびに漁協組織の経営・基盤強化が喫緊の課題となっております。

また、ALPS処理水の海洋放出により、ほたて・なまこをはじめとする本県水産物に対し中国の禁輸措置がとられました。

国、県に対し漁業の継続と漁協経営への支援について強く要請すると共に、東京電力に対し場面に応じた交渉を適宜迅速に進めて参りました。

ほたて養殖業においては、2年連続の種苗不足と高水温の影響から大幅な減産を免れず厳しい状況下におかれましては、

ほたて養殖再生にむけ、県・関係団体等の協力を得て4億円の基金造成による「親貝確保対策」を講じ、一定量の稚貝を確保

できましたが、一部地区においてへい死が発生している事もあり予断を許さないとこの事です。

今年、JFグループが進める次期運動方針の初年度となります。

これまでも、浜の活力再生プランを始めとする各施策を通じ、水産業の振興・活性化に向けた取組みを推進して参りましたが、それらに加え「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「中核的役割発揮による漁業への貢献」等の取組みを柱に、従前以上に浜の活力再生による漁業所得向上と経営基盤強化による組織の強化を図り、本県水産業の持続的発展にむけ、役職員一丸となり邁進して参りますので、より一層のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



青森県農林水産部

水産局長

山中 崇 裕

明けましておめでとうございます。

本県水産業の振興と発展に御尽力いただいている皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

さて、昨年は、令和7管理年度における本県のクロマグロ漁獲枠が増枠される方針となったほか、令和5年漁期における陸奥湾のマダラ漁獲数量が過去最高の2,671トンとなるなど、明るい話題がありました。

一方、スルメイカやサケなど主要魚種の漁獲低迷、ホタテガイでは近年の採苗不振や高水温の影響による生産量の減少のほか、ALPS処理水の海洋放出に伴う中国の輸入停止措置については段階的に輸入を再開する方針が示されたものの、今後の見通しが立っていない状況となっております。加えて、国際情勢等を背景とした燃料や資材等の価格高騰など、依然として厳しい状況が続いています。

こうした中、県ではいか釣漁業の経営改善指標のとりまとめや、サケの回帰率向上に向けて環境変化に応じた放流手法の検討に取り組むとともに、ホタテガイについては安定生産と成長産業化の実現を目指す「陸奥湾ホタテガイ総合

戦略」を昨年10月に策定し、全ての関係者が団結して課題克服に取り組む「産業を守る仕組みづくり」と、DXなどを積極的に取り入れ生産性を高める「未来を創る産業革新」の基本理念の下、各種施策を積極的に展開することとしています。

さらに、養殖サーモンの一大産地化を目指すための新たなブレイヤーの掘り起こしや、種苗生産機関の連携等によるナマコ資源の増大を強力に推し進めるほか、漁村地域の資源を活用する「海業」にも取り組むとともに、漁業者自らが実行する「あおもりの漁師祭」など漁村の活性化に取り組む体制づくりの支援についても、継続して取り組んでいきます。

今後も、引き続き関係者の皆様との対話を重ねながら、漁業者の所得向上につながる取組をさらに前進させることとしておりますので、より一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びにあたり、皆様のますますの御健勝と御繁栄、そして操業の安全を心からお祈りいたします。新年の御挨拶いたします。





東日本信用漁業協同組合連合会青森支店
青森県マリンバンク運営委員会

運営委員長 成田直人

新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、青森県の漁業者の皆様並びに漁協系統関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

平素より当連合会JFマリンバンクの業務運営につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、令和6年元日に発生した能登半島地震で被災した皆様に対して、心からお見舞い申し上げます。

当連合会は、昨年4月に宮城県漁業協同組合から信用事業を譲り受け、13県域での事業運営となりましたが、引き続き合併のメリットを生かし、JFマリンバンクらしい金融サービスを提供し、コンプライアンス意識の醸成を図り、信頼を得ることをもってわが国漁業と地域の発展に、さらなる役割を発揮していく所存でございます。

このような中、本県の漁業環境につきましては、スルメイカやサケの慢性的な漁業不振や、ホタテガイの大幅な減産、クロマガドロ資源管理に伴う収入の減少など、依然として厳しい状況が続いておりますが、当支店といたしましては、漁業者の生活維持、および漁業継続維持を図る

ための金融支援として、制度資金であります漁業近代化資金や当面の生活資金、運転資金など各種の金融商品や住宅・マイカーローンなどのローンキャンペーンを展開し、皆様のお力になれるよう、対応しております。

一方、貯金業務につきましては、日本銀行の政策金利の引き上げを受けて、昨年9月に定期性貯金の金利を引き上げましたが、現在は、さらに金利が上乘せとなる、寄付金型定期貯金「JF水色の羽根定期貯金」を販売し、昨年に引き続き、預入残高に応じて、「海難等により親を亡くした子供達の成長を願い、励ます事」を目的とし、(公財) 漁船海難遺児育英会へ寄付すること、社会有用の人材育成、漁業経営の安定に寄与してまいります。

結びといたしまして、皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたすとともに、これまで以上に皆様の漁業経営や生活を支える役割を果たしていく所存でございますので、これからもJFマリンバンクへの変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。





全国漁業信用基金協会 青森支所

担当理事 奈良岡 修 一

新年おめでとうございます。

日ごろ当協会の業務運営につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年の漁業を取り巻く状況は、海洋環境の激変に伴う不漁や燃油、資材等価格の高騰、そして、漁船の高船齢・老朽化、更には、漁業者の高齢化や就業者の減少等により、大変厳しい状況にあります。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様、そして私ども「系統団体」が一丸となり、

その役割を発揮することが必要と考え、当協会としましても関係機関と連携し、厳しい環境下にある漁業者の経営並びに生活の維持・安定を持続的に図るため、国の事業である「浜の担い手漁船リース緊急事業」及び「競争力強化型機器等導入緊急対策事業」に係る金融資金を推進しているところであります。

また、本県独自の小口生活資金等を柱とした「沿岸漁業推進関連資金」等に加え、令和五年十二月からは、高水温による魚類等の不漁及びホタテガイへい死に係る漁業者への金融支援対

策として、東日本信用漁業協同組合連合会青森支店と協調し、既存の資金とは別建ての生活資金や経営資金を新たに創設し、併せて、青森県と協議し漁業者負担の軽減を目的に協会保証料の全額を助成する等の措置を講じているところであります。

青森支所では、協会の経営理念である「中小漁業者等の信用力を補完し、経営に必要な資金の融通を円滑にすることにより、水産業の振興を図るとともに、漁村地域の発展に寄与する」に基づき、引き続き努力して参る所存であります。

結びに、皆様のますますの御繁栄、御健勝並びに海上安全をお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。



日本漁船保険組合 青森県支所

運営委員長 福島 哲 男

新年明けましておめでとうございます。

令和七年の新春を迎え、組合員、漁業協同組合、水産関係団体の役職員の皆様から新春のお慶びを申し上げます。

令和六年は元日に石川県において能登半島地震が発生し、家屋の倒壊や津波の襲来等各地に甚大な被害をもたらしました。また、台風の接近が少なかつたこともあり記録的な夏日が続

き、三陸沖や北海道南東沖では「海洋熱波現象」により海水温が上昇するなど、一昨年に続き気候変動が顕著なものとなりました。

このような現象は海洋生物のみならず生態系の変化を招き、今後も継続されるものと予想されており、本県でも元々南方で漁獲されてきた魚類が水揚げされるようになりましたが、主力魚種であるスルメイカやホタテガイの水揚量や

金額は減少の一途を辿っています。また、魚価の低迷や、燃料資材の価格高騰等による所得の低迷に加え後継者不足による漁業人口の衰退も重なり、漁業経営の厳しさが依然として続いている一年でありました。

当組合は平成二十九年四月に全国統一組織となり七年が経過しました。その基盤や機能をより強固にするため漁船保険事業の円滑な運用に努め、漁業経営の安定に資するという漁船損害等補償制度の目的が達成できるよう、引き続き業務の効率化等に鋭意取り組むとともに、漁業者の信頼に応えるため事業の積極的な推進を行って参ります。又、昨年と同様無事戻事業、整備点検事業、救命胴衣助成金や船舶自動識別装置助成金交付事業など各事業を通じて、加入

漁船に係る事故の未然防止に積極的に取り組み、事業の更なる拡充に努めて参ります。

今後とも漁船保険は、漁船漁業のセーフティネットとしての役割を果たすため、今後発生するかも知れない巨大災害に対する備えとしまして、すべての漁業者に安定したサービス

を提供できますよう未加入船の加入推進に鋭意取り組んで参ります。

漁業者と浜のための漁船保険たる理念のもとに、一層の保険サービスの向上に役職員一丸となつて取り組んで参りますので、関係各位のなお一層のご指導、ご協力を賜りますよう、宜し

くお願い申し上げます。

終りに皆様のご健勝とご多幸、そして漁業界の更なる発展を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣明

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

さて、「ぎよさい」は自然災害による被害や不漁・魚価の低迷などによる損失を補償し、漁業経営の再生産と安定を支える事業として、昭和39年に漁業災害補償法が施行され、昨年、制度創設60周年を迎えることができました。これもひとえに漁業者の皆様のご理解と関係各位のご協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、家屋の損壊に加え、漁船や漁具の喪失、一部漁港も機能を喪失するなど大きな被害となり、未だに漁業再開の目途が立たない漁業者も多くおられます。被災された皆様に対し心よりお見舞い申

しあげ、一日も早い漁業の再開と復旧を願うばかりですが、改めて自然災害の恐ろしさを痛感することとなりました。

また、本県においては、長期間に渡るるめいかやさけ等の回避不振、むつ湾のほたて養殖においては海洋環境の変化によるへい死等の被害、更には東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水海洋放出に伴う風評被害など、漁業経営を取り巻く環境は依然として厳しい年となりました。そのようななかで、「ぎよさい」と「積立ぶらす」への加入は漁業経営のセーフティネットとして国の重要な水産施策に位置付けられており、近年その役割は重要性を増し、漁業経営を継続する上で欠かすことのでき

現在、国は「ぎよさい」と「積立ぶらす」について、水産基本計画等に基づいた制度見直しの検討を進めております。その検討にあたっては、漁業実態や漁業者の意見が反映されたものとなるよう、漁連や関係団体と緊密に連携し働きかけて参ります。

我々は、本県の隅々まで「ぎよさい」と「積立ぶらす」を浸透させるべく普及推進に取り組んでいるところですが、皆様のご理解とご協力のもと、この制度を一層定着させ、漁業経営の安定と本県水産業の発展に寄与できるよう引き続き取り組んで参りますので、皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、「ぎよさい」と「積立ぶらす」の制度へのご理解に対し、本県漁業関係の皆様には厚く御礼申し上げます。新たな一年を迎え、本年が災害のない豊漁・豊作の年となりますことと、皆様のご健勝と海上安全をご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。



農林中央金庫青森支店

支店長 桐原豊彦

県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁協系統事業全般にわたる皆様の日々のご尽力に深く敬意を表しますとともに、私も農林中央金庫の業務に関しまして、平素より多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、青森県下の漁業情勢におきまして、昨今の海洋環境の変化および気候変動に起因する主力魚種を中心とした漁獲低迷や、ホタテ養殖漁業における稚貝の大量へい死等の影響も受けた種苗不足等、県内水産業界は深刻な状況が続いております。重ねて、燃油・資材価格の高騰の影響を受け、漁業・漁協経営は、依然として厳しい状況下におかれております。

一方で、足元ではクログマグロの来期の漁獲枠が2024年度の3割増で、過去最大となることや、アルプス処理水の放出に起因する水産物の中国への全面輸出禁止に関しては、徐々に輸出再開に向けた動きが出てくる等、県内水産業界の活性化に向けた明るい話題も見えてきています。

また、国内経済の先行きに関しては、賃金の増加、省力化や脱炭素化を志向する企業の設備投資意欲の高まり、政府の経済対策や年収の壁の引上げ等を背景に成長軌道を辿るものと見られております。一方で、米国の大統領選の結果、関税の引上げが世界的な報復関税の応酬を引き起こすとともに、日本からの財の輸出にもマイナスの影響を及ぼす可能性があると見られております。また、足元では米国の中央銀行であるFRBの利下げペースが鈍化しており、日銀の政策金利の引上げが、円高進行に影響を与えるかも注目されているところであります。

このように、水産業界を取りまく環境は厳しく、国内外の経済も不透明な中ではございますが、私も農林中央金庫といたしましては、JFMリンバンク、協同組合組織の一員として、漁業者所得の向上、ならびに地域振興等に一層努めて参りますので、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、本年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役員の皆様の健康とご繁栄、安全を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和七年 全国系統団体 年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長

坂本 雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年も多くは自然災害に見舞われた1年でした。その中でも、1月に発災した令和6年能登半島地震は記憶に新しく、漁業者の大切な生活基盤である漁港がこれまで経験したことのない地盤の隆起により、甚大な被害を受けました。本地震の被害に対し、皆さまには募金や物資の支援などについて多大な協力を戴いたところですが、被災地では今も漁業関係者のみならず地域住民が一丸となって復興に向けて尽力しており、本会では引き続き皆さまのご協力を得ながら、一日も早い復興に向け、支援して参る所存です。

このほか、私たちの生業の場である海の環境は、変化の一途をたどっており、海水温の上昇などの影響を受け、前浜における漁獲魚種の変化や漁業生産量

の減少が顕著となっております。海洋環境は今、「激変の時代に突入した」と言え、JFグループは、この海洋環境の激変に立ち向うべく、自らの役割、使命が大きく問われています。

そのため、我々は昨年12月に全国から約1,000人のJF代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」の3つの取り組みを柱に据えた今後5か年の新たな運動方針をJFグループ総意の下、採択し、総力を挙げて、JFの自己改革を断行することを決議しました。

私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあることを確信しており、これからの5年間は、まさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。JFグループは、新たな運動方針の下、海洋環境の激変や資材価格の高騰、ALPS処理水の

海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制など、山積した課題や困難を克服し、漁業者の所得向上を図るとともに、持続可能な漁業経営と水産食料の安全保障をはじめとした漁業者・国民の負託に応えるべく、組織の総力をあげて取り組んで参ります。

そして、我々は日本の海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業」の振興などととともに、「浜の活力再生プラン」を推進して参ります。併せて、プライドフィットシユプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたいとお願ひ申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

楠田 勇二

新年あけましておめでとございます。年頭にあたり、浜の皆様にご高配を賜う慶びを申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、2024年元日に発生した能登半島地震をはじめ、これまでに台風や地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地のJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げますとともに、未だ自由な暮らしをされています方々へ、一日も早い復旧をお祈りいたします。

能登半島地震では水産業に甚大な被害を受けました。また、高齢化や漁業従事者の減少、海洋環境の激変に伴う主要魚種の不漁が続くほか、不安定な社会・経済情勢、物価の高騰、ALPS処理水問題など、漁業者やJFを取り巻く事業環境は先行きが見通せず、依然として厳し

い状況が続いています。

こうした中、JFグループでは、昨年12月4日のJF全国代表者集会において、2025年からの運動方針「海洋環境の激変に立ち向かうJF自主改革の断行」を決定し、①漁業者を支える事業・

経営改革の断行、②組織基盤の確立、③浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献を3つの柱として取り組むこととなりました。その中で、JFの主要事業である共済事業につきましては、「浜のあんしんサポート運動」を積極的に展開し、定着させることにより、組合員・地域住民一人ひとりに寄り添った保障提供を進め、JFの共済事業収入の増大に取り組むことが決定されました。JF共済としましては、2025年は「浜の笑顔を共済とともにJF共済3か年計画」の最終年度として、JFグループの運動方針に則り、「浜のあんしんサポート運動」

の展開とさらなる定着を図ることで、皆様の暮らしの保障に万全を期し、事業量目標の必達と保有契約量の維持・拡大に邁進してまいります。

特に、2025年は阪神・淡路大震災から30年となる年でもあり、近年自然災害が頻発・激甚化する中、JF共済の役割は重要性を増していると考え、引き続きJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様にご安心をお届けできるよう役職員一同取り組んでまいります。関係者の皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。そして、最後となりますが、全国の浜の皆様のご安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 二木 春美

副会長理事 坂井 幸人

専務理事 熊木 正徳

理事 三津谷 廣明

〃 富田 重基

〃 南谷 雅人

〃 澤田 繁悦

〃 熊野 稔

代表監事 今 進

監事 尾崎 幸弘

〃 梶浦 武也

ほか職員一同

東日本信用漁業協同組合連合会 青森支店

運営委員長 成田 直人

ほか役員一同

全国漁業信用基金協会 青森支所

担当理事 奈良岡 修一

ほか役員一同

日本漁船保険組合 青森県支所

運営委員長 福島 哲男

ほか役員一同

青森県JF共済推進本部

会長 三國 優

ほか役員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣明

ほか役員一同

(一社)青森県漁港漁場協会

代表理事 富岡 宏

ほか役員一同

令和7年ほたて生産・販売関係者新春祝賀会

令和7年1月6日、青森県漁連・むつ湾漁業振興会・青森県ほたて流通振興協会の共催により関係者約110名参加の下、ほたて生産・販売関係者新春祝賀会がウェディングプラザアラスカにて開催されました。



左から2人目 岡村恒一氏、3人目 横濱充俊氏



二木会長による挨拶

祝賀会の開催に先立ち、昨年の親貝確保緊急対策事業に協力を頂いた青森県、関係市町村、加工業者、一般支援者、団体を代表して(株)オカムラ食品工業、(株)マルイチ横浜へ感謝状を贈呈しました。

祝賀会では、主催者の県漁連二木会長より「採苗不振に対して、稚貝をより多く確保するため、青森県や関係市町村、加工業者の皆様を含めた多くのご支援を頂き、「4億円の基金造成」を行い、産卵後に出荷させる「親貝確保対策」を講じました。その結果、漁協や漁業者間での融通、連携を図りながら、陸奥湾全体に於いて、稚貝を十分に確保することができました。

しかし、10月の分散作業に入ると稚貝のへい死が各地で出始め、来年こそ再生できると思った矢先の壊滅的なへい死被害であり、痛恨の極みであります。ですが、支援下さった皆様のためにも、「安定的な稚貝確保のための親貝づくり」について、我々漁業者が主体となり、「ホタテ養殖業の再生」に全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご支援とご協力をお願い致します」と挨拶がありました。



むつ振 立石会長

その後、来賓として宮下宗一郎青森県知事（小谷副知事代読）に続き、津島淳衆議院議員、江渡聡徳衆議院議員から祝辞を頂戴した後、むつ振立石会長の乾杯により祝宴が始まりました。また余興として、二代青森ほたて大使三津谷有華さんによる歌謡ショーが盛大に行われ、最後にほたて流振三津谷会長による閉会の挨拶で締め、祝賀会は盛況のうちに終了しました。



2024年度 海難防止技術競技会 陸奥湾大会

2024年9月10日(火) 横浜町 横浜漁港において、2024年度『海難防止技術競技会 陸奥湾大会』が開催され、4箇所の救難所と漁業関係者合わせて約220名が参加し、人命救助に係る海難防止技術競技を実施しました。

主催者を代表し、青森県漁船海難防止・水難救済会会長の二木春美より「海難事故防止に向けては、救命胴衣常時着用や講習会の開催など様々な啓発活動を実施しておりますが、依然として海難事故は後を絶たず毎年尊い人命と貴重な財産が失われております。その方策として救命胴衣を着用することはもとより、出港前には必ず整備点検することや気象状況を確認するなど、出来ることは自分で実践し、家族のため地域のために海難事故防止に努めることが大切です。

しかし万が一、不慮の事故が発生した場合は漁協や保安部などの関係機関へ通報し捜索を要請することが必要であり、その海難事故現場に真っ先に駆けつけ救助捜索活動を行なう救難所の活動の大切さは言うまでもありません。海難事故の現場では、的確な判断と迅速な行動が求められております。そのため、救難活動の技術向上と救難所員の救命意識を高めるため、海難防止技術競技会を開催し、海難事故撲滅に努めてまいります。」と挨拶がありました。

その後、来賓として青森海上保安部 部長 植松剛紀 様、横浜町 町長 石橋勝大 様、青森県水産局 局長 山中崇裕 様 からご挨拶を頂きました。



二木会長

～ 海難防止技術競技会 ～

救難所の技術向上を目指す為の海難防止技術競技会に、4救難所（平内町、横浜、佐井、大畑町）総勢 85 名が整列競技・心肺蘇生法競技・消火競技・ゴムボート操法競技の4競技について技術を競いました。

①整列競技

各救難所から所長以下5名が参加し、救難所員としての基本動作の俊敏性と正確性を競う。



① 整列競技

②心肺蘇生法競技

各救難所から3名が参加。基本動作に加え心肺蘇生の手順・胸部圧迫法の正確性を競う。



② 心肺蘇生法競技

③消火競技

各救難所から所長以下5名が参加し、基本動作に加え消火作業の正確性を競う。



③ 消火競技

④ゴムボート操法競技

各救難所から5名が参加。所員の統制とタイムを競う。



④ ゴムボート操法競技

～ 技術競技結果 ～

第1位 横浜救難所



第2位 佐井救難所



重大漁船海難防止講習会

本会及び海上保安部・青森県・日本漁船保険組合青森県支所の4機関共同で重大漁船海難防止に関する共同計画書を策定し、これに基づき活動を実施しております。

この活動の一環として、2024年10月23日 風間浦漁業協同組合（受講者：30名、開催場所：漁協2階会議室）、11月20日 八戸市南浜漁業協同組合（受講者：30名、開催場所：八戸市南浜公民館）において重大漁船海難防止講習会を実施いたしました。

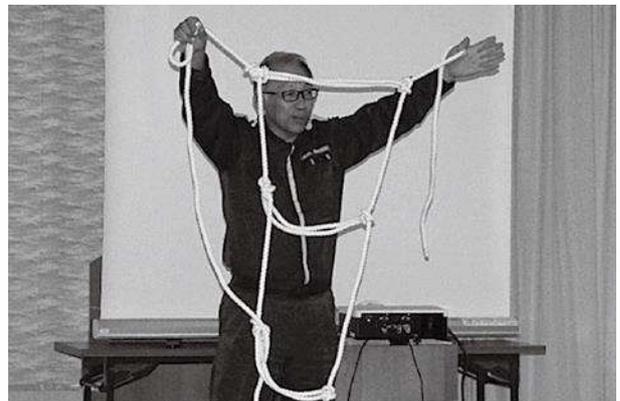
海難防止のためのポイントとして①救命胴衣の正しい着用②梯子の備え置き③巻き込まれ防止対策④漁船のプロペラ点検口窓等に関連した事故防止の4項目について説明したあと、海難防止についての啓発活動を行いました。



風間浦漁協 会議室



八戸市 南浜公民館



令和6年度陸奥湾密漁取締訓練開催

県内のナマコ漁が解禁される10月を前に令和6年9月18日に青森市後潟漁港において「陸奥湾密漁監視システムの効率的運用」と「取締機関との更なる連携・協力体制の強化」による「密漁の未然防止」を目的として、「陸奥湾密漁取締訓練」が青森海上保部、青森県警察本部、青森県、青森警察署、陸奥湾内各漁協、その他関係機関など合わせて約110名参加の下、開催されました。

むつ湾漁業振興会立石会長の開会宣言で始まり、「陸奥湾全体を24時間、広域的に網羅できる密漁監視システムを導入し、官民一体となり効率的に機能させる必要がある」と述べ、続いて、県漁連二木会長が主催者挨拶として「密漁監視システムを有効に活用できるよう、ナマコ漁解禁前に実践を踏まえた訓練を行い、密漁対策を万全にしたい」と述べました。その後、来賓挨拶として青森海上保安部植松部長（若月次長代読）、青森市西市長（青森市水産振興センター柳谷所長代読）と続いた後、密漁取締訓練に入りました。

訓練内容としては、下記の通りです。

- (1) 後潟漁協管内での密漁者を発見
- (2) 関係機関への連絡
- (3) 陸上での密漁者の追跡
- (4) 洋上での密漁者の追跡
- (5) 後潟漁港陸上での密漁者の身柄確保

以上の項目を想定により、青森海上保安部、青森県警察本部、青森県、青森警察署、NECフィールドディング株式会社の協力を得て訓練を実施しました。

最後に青森県警察本部生活安全部工藤部長の講評を頂き、そして今回の開催地である後潟漁協山口組合長が閉会宣言として、「本日の密漁訓練を期に、取締機関との連携の強化を図り、陸奥湾における密漁未然防止に努めて参ります」と述べ、「取締機関」と「漁業者」が「官民一体」となり「密漁の未然防止」に取り組んでいることを、メディアを通じて内外に発信しました。



後潟漁協 山口組合長



漁協経営検討会

8月から11月にかけて、本会及び(公社)青森県漁協経営安定対策協会は、小規模化が加速する県内漁協の現状確認と経営安定化に対する課題を抽出し、漁協経営健全化に向けた取組の参考とするため、下記の通り県内7地区、21漁協を対象に漁協経営検討会を開催しました。



- | | | |
|--------|-------------------------|----------------|
| 8月27日 | 東通村内8漁協 (石持～白糠) | 於 東通村 あがさいホール |
| | 六ヶ所村3漁協 (泊、六ヶ所村海水、六ヶ所村) | 於 六ヶ所村海水漁協 会議室 |
| 8月28日 | 深浦漁協 | 於 深浦漁協 会議室 |
| | 新深浦町漁協 | 於 北金ヶ沢会館 |
| 10月15日 | 三沢市漁協 | 於 三沢市漁民研修センター |
| 10月21日 | 後潟漁協、青森市漁協 | 於 水産ビル3階 会議室 |
| 10月23日 | むつ市漁協、川内町漁協、脇野沢村漁協 | 於 むつ市漁協 会議室 |
| 11月22日 | 野辺地町漁協、横浜町漁協 | 於 横浜町漁協 会議室 |

2024年度 決算実務研修会

2024年12月13日(金)、水産ビル7階大会議室において2024年度決算実務研修会を開催し、悪天候にも関わらず県内44漁協、約80名が出席しました。研修会では、①2024年度税制改正について ②業務報告書の作成手引きについて説明するとともに、安全操業の注意喚起を行いました。



- <研修内容> (1) 2024年度税制改正について
(2) 業務報告書の作成手引きについて

第4回 ALPS 基金事業説明会

第4回 ALPS基金事業説明会を2024年12月13日(金) 水産ビルで開催致しました。

今回は、(一社)漁業経営安定化推進協会から沼田事務局長・白方課長代理をお招きし、来年度から開始される第2期(2ヶ年分)の申請方法や、作成に係る留意点などを解説して頂いた他、適切な事務処理に向けての注意喚起を行うなど、県内38漁協より51名が出席致しました。



沼田事務局長(左) 白方課長代理(中)

JF全国代表者集会

12月4日(水) 東京都内において、「JF全国代表者集会」が開催されました。集会には、JFグループ代表者の他、友誼団体、関係者ら約1000人が集まり、新たな運動方針(2025～2029年度)を特別決議しました。

主催者を代表し、坂本会長(JF全漁連)は「現行運動方針(水産業の成長産業化に向けた改革の実践～JFグループが漁業者とともに自ら拓く浜の未来～)に基づき、漁業者とJF役職員は試行錯誤を重ね、取り組んで参りました。新型コロナウイルスにより日常生活は破壊され、外食需要は減退し、魚価の低迷等、水産業界に甚大な影響を及ぼしました。また、ALPS処理水の海洋放出には、当時の岸田総理から廃炉完遂まで、全責任をもって漁業者の生業を守る主旨の発言を頂きました。処理水放出後、国民からの温かい応援消費がありました。中国等の禁輸措置により、一部魚種に多大な被害を被ることとなりましたが、漁業者はこの苦難に立ち向かっております。本年1月に発災した能登半島地震では、漁業者の生活基盤でもある漁港に甚大な被害をもたらしましたが、被災地では、JF役職員が一丸となり復旧復興に向けて尽力しているところあります。この5年間、我々の生業の場である海の環境は変化の一途を辿り、海水温上昇による漁獲魚種の変化をもたらし、海洋環境は激変の時代に突入してお



JF全漁連 坂本会長



ります。この激変する海洋環境に立ち向かうため、我々JFグループが環境の激変を乗り越えるために自ら改革を断行し、日本の漁業を持続的な産業にすることで確実に次世代に繋ぐ指針となるものであります。協同組合の三位一体性を徹底し、いかなる状況下においても、JFの機能と役割発揮を基本的な考え方とし、確実に実践してグループの総力をあげた運動を展開してまいります。新たな運動方針の下、志を同じくする関係者と連携し、漁業のポテンシャルを引き出し、漁業と漁村地域の発展に貢献していく所存であります。」と挨拶しました。

その後、阿部副会長(JF全漁連)より海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行に関する特別決議が読み上げられ、満場一致で採択されました。



JF全漁連 阿部副会長

JFグループは、適切な資源管理の下、自らの課題として漁業者の所得向上や浜の活性化に取り組むとともに、水産物の安定供給や沿岸域の環境・生態系保全、国境・沿岸域の監視機能や海難救助など国民生活に不可欠な役割を果たしてきた。

一方で、海洋環境の激変や資材価格の高騰、海外における水産物の輸入規制などにより漁業を取り巻く状況はより困難さを増しており、とりわけ海洋環境の激変への対応は、漁業者・JFの経営を持続可能なものとするうえで急務となっている。

我々JFグループは、これら困難を克服し持続可能な漁業経営と水産食料の安全保障をはじめとした漁業者・国民の負託に応えるべく、協同組織として総合事業を展開するJFの強みを再確認し、これを最大限発揮するとともに、事業・経営改革、組織基盤の確立、漁村・漁業への貢献の3つを柱とするJFの自己改革を、グループの総力を挙げて断行することを決議する。

各種要請活動について

12月5日、①クロマグロ資源管理対策として、クロマグロの積立ふらす下げ止め特例措置廃止や太平洋クロマグロの増枠に伴う配分について、不公平感が生じないように。②燃油高騰対策について、セーフティーネット事業の発動基準の引き下げと燃料油価格激変緩和対策事業の継続を。③持続可能なホタテガイ対策として、高水温に強いホタテガイ養殖技術の研究を早急に取り組むよう。④ALPS基金事業として、基金を今後も積み増しをし、廃炉が完了するまで。⑤秋サケ不漁対策について、回帰率アップのため、県と連携し放流種苗の品質向上に向け取り組んでいるが、1990年度の漁獲量12,617トンピークに年々減少し、2023年度においては184トンの漁獲にとどまり、ピーク時の98.6%の減少率となっていることから、以前、国が手当した資源管理型漁業の先駆けとなったサケマス増殖事業を、今の環境にあった増殖事業として、国主導で推進されるよう要請しました。

要請先：JF全漁連（坂本会長）、水産庁長官、本県選出国會議員

要請者：二木会長、成田信漁連運営委員長、立石むつ振会長、熊野組会長、熊木専務、奈良岡基金運営委員長、成田共済専務



JF全漁連 坂本会長（右から三人目）



森水産庁長官（左）

12月11日、①燃油高騰対策について、セーフティーネット事業に係る掛金の一部補助を。②持続可能なホタテガイ対策として、ここ数年の猛暑は災害的な要素があり、今後も続く可能性があることから、持続可能なホタテガイ養殖業の構築のため、基金の創設に向けた仕組みづくり等に関して支援を。③漁協組織再編に係る支援対策として、合併促進法に基づき推進を行ってきたが、当時から見ると漁業者の減少や取扱い低下により漁協の小規模化が見受けられる。更に職員の減少による事務の停滞がみられ、総合事業体としての機能が果たせない状況にある。これまでも青森県の協力を得ながら推進を行ってきたが、今一度指導支援を。



小谷副知事（右）

④秋サケ不漁対策について、回帰率アップのため、県と連携し放流種苗の品質向上に向け取り組んでいるが、1990年度の漁獲量12,617トンピークに年々減少し、2023年度においては184トンの漁獲にとどまり、ピーク時の98.6%の減少率となっていることから、以前、国が手当した資源管理型漁業の先駆けとなったサケマス増殖事業を、今の環境にあった増殖事業として、国主導で推進されるよう県から国へ働きかけを強く要請するとともに、サケふ化放流事業に係る青森県サケマス増殖流通振興協会の負担軽減と同協会への支援を要請しました。

要請先：宮下青森県知事（小谷副知事）、丸井青森県議会議長

要請者：二木会長、坂井副会長、立石むつ振会長、三津谷組会長、熊木専務

2024年度漁協運動功労者表彰

全漁連の2024年度漁協運動功労者が決定し、本県から竜飛今別漁業協同組合野土一公氏がその功績を認められ受章されました。



<功績の内容>

平成20年に3つの漁協が合併し「竜飛今別漁協」が誕生して以降、合併漁協の長としてリーダーシップを発揮し、合併効果を活かした漁協経営に努めるとともに、持続的な漁業経営にむけ養殖事業に積極的に取り組んでおります。

また、現在本格操業している、前沖でのサーモン養殖に試験段階から携わり、養殖事業の産業化を実現し、漁協の経営基盤強化と地域経済の活性化にむけ尽力しております。

令和6年度 販売担当者会議 開催

10月1日、青森県水産ビル7階「大会議室」において「令和6年度 販売担当者会議」が開催され、漁獲量の実績や今後の水揚げ動向について、意見が交わされました。

会議では、鮮魚の主力であるスルメイカが、昨年同様に全国的な不漁に見舞われ、本県においても高単価ではあるが水揚げが低調に推移し、非常に厳しい状況である事や、マグロについては、漁獲制限があるなか各海域とも、定置、一本釣り、はえ縄漁で9月末の昨年対比99%と順調な水揚げで推移しているとの近況報告がなされた。

会議終了後に、仙都魚類(株)の渡辺次長、コープ東北サンネット事業連合の土井氏を講師に迎え、仙台市場における水産物流通と販売店における販売について講演をいただきました。



・報告 令和6年度9月末取扱実績について

・研修会

講演 「仙台市場における水産物の流通について」

講師 仙都魚類株式会社 鮮魚2部次長
渡辺宏行 氏

講演 「量販店における水産物の販売について」

講師 コープ東北サンネット事業連合
店舗商品本部 水産部門統括 土井健志 氏



仙都魚類(株) 渡辺 宏行 氏



コープ東北サンネット事業連合 土井 健志 氏

令和6年度 青森県漁協系統購買担当者研修会

11月1日(金)「令和6年度青森県漁協系統購買担当者研修会」が本会水産ビル 7階にて開催されました。



「1月の能登半島地震から始まり、豪雨災害及び記録的な猛暑も重なり、漁業に大きな影響を及ぼしています。その影響下もあり、スルメイカ、鮭等の漁獲不振、ほたて貝の稚貝不足や大量へい死を招き、漁業経営は大変厳しい状況です。今回の研修会では販売・購買事業状況や石油情勢等を把握し、新たな情報を取り入れ浜の活性化に繋げて頂きたい」と熊木専務より挨拶がありました。

その後購買事業の状況について報告があり、続いて下記の内容で研修会を実施しました。



- ・報告
「販売・ほたて・購買事業状況について」
(青森県漁連 柴田業務部部长、横山購買課長)
- ・研修会
「最近の石油情勢と大漁オイルについて」
(全漁連石油二課 東海林調査役、鶴岡)
「資材取扱商品について」
(全漁連資材課 池田課長、富安調査役)
「藤倉航装救命胴衣指導マニュアルについて」
(藤倉航装(株) 業務課福島グループリーダー)

水産まるごとフェア開催

JF青森漁連流通PRセンターでは、各浜で水揚げされる旬の魚介類加工品を消費者へPRすることを目的に、11月30日(土)に開催致しました。

県内各地域から参加型企画として本会を含む6団体の出店となり漁協女性部による加工品を始め、十三湖産しじみやキン目、ムラサキイカ、いか焼、さざえ焼など新たな加工品も数多くを出品したことでお客様に喜んでいただけるフェアとなりました。悪天候にもかかわらず、多数の来場者に恵まれ本県水産物の素晴らしさが消費者に伝わった開催となりました。



青い森が海を育み、良質な青森ほたてを育てます。

自然の森林群に囲まれたむつ湾で育った青森ほたては、周りの山々から流れ込んでくるミネラルたっぷりの水で育つため、まろやかな甘みとプリプリの肉厚な身がたっぷり詰まっています。

自然に育てられた青森ほたてには、タンパク質、脂肪、カルシウム、その他のミネラルなど豊富な栄養分が含まれています。主な成分はタンパク質で旨味成分のアミノ酸含有量が多く、甘みや深い味わいを生み出しています。

特に貝柱には、甘みを感じるグリコーゲンがたっぷり含まれています。



ほたてとキャベツの韓国風サラダ

材 料		タレ	
ほたて……………	4個	白いりごま……………	小さじ2
キャベツ……………	100g	糸唐辛子……………	少々
キムチ……………	50g	ほん酢……………	適量

つくり方

- (1) ほたてを貝から外し貝柱・ひもに分けて水洗いして水気をしっかりふき取り貝柱を横2等分にする。
- (2) キャベツをざく切りに、キムチを1cm幅に切る。タレは混ぜておく。
- (3) お湯を沸かして塩を入れ、キャベツを茹でてザルに取りだして冷ます。
- (4) 再度お湯が沸いたらほたてをサッとのお湯にくぐらせて冷水に取り水気をふき取る。
- (5) 白ごまとその他の材料を混ぜ合わせて盛り付け、糸唐辛子を添える。



焼きほたてサルサソース掛け

材 料		サルサソース	
ほたて……………	3個	ミニトマト……………	3個
イタリアンパセリ……………	少々	パプリカ黄……………	1/6個
塩コショウ……………	少々	玉ねぎ……………	10g
オリーブオイル……………	大さじ1	ピーマン……………	1/4個
小麦粉……………	適量	おろしにんにく……………	少々
		レモン汁……………	少々
		タバスコ……………	少々
		塩コショウ……………	少々
		ケチャップ……………	小さじ1

つくり方

- (1) ほたてを貝から外し水洗いして水気をしっかりふき取り塩コショウ少々振りかけ小麦粉をまぶす。
- (2) サルサソースの野菜を荒めのみじん切りにしてケチャップ・レモン汁・タバスコ・塩コショウで味を調える。
- (3) フライパンにオリーブオイルを熱してほたてを焼く。
- (4) 器にほたてを盛り付けてサルサソースを掛けイタリアンパセリを添える。



ほたてこがしバター焼き

材 料		しょうゆ……………	
ほたて……………	3個	ミニトマト……………	3個
アスパラ……………	2本	レモンライス……………	3枚
白髪ねぎ……………	適量	バター……………	20g
		しょうゆ……………	小さじ1
		塩コショウ……………	少々

つくり方

- (1) ほたてを貝から外し貝柱・ひもに分けて水洗いして水気をしっかりふき取り、塩コショウをする。アスパラをポイルしておく。
- (2) フライパンにバターを入れ強火にして、うっすら茶色になったらほたてを入れて両面焼く。
- (3) (2) にアスパラ・ひもを入れサッと焼いたら醤油を入れトロッと濃度がついたら具材に絡める。
- (4) 器にアスパラ・貝柱・ひもを盛り付けこがしバターを回しかけ、白髪ねぎを乗せミニトマト、レモンを添える。

令和7年1月

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

〈印刷〉ワタナベサービス株式会社